

ID	受理日	番号	製造者	品名	原料	製法	国産	有効成分							
99	2008/04/23	80099	日本メジ フィジック ス	放射性医薬品基準人血清アルブミン五 酢酸テクネチウム(99m Tc)注射液	人血清アル ブミンジエ レントリア ミン五酢酸 テクネチウ ム (99m Tc)	生物学的製 剤基準人血 清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無				
100	2008/04/23	80100	日本ビー ンジー 製造	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Acta Neurol Scand 2007; 116: 75-82	プリオン蛋白PrPcの生理学的機能に関するin vitroおよび in vivoでのエビデンスの総論である。今までの研究から PrPcが中枢神経系の多数の非プリオン疾患において疾 病修正因子として重要な役割を果たすことが示唆されて いる。また、神経発達および神経保護や免疫調整におけ る役割に関する研究が集積しつつある。これらの研究は PrPcの生物学的役割の理解に貢献し、新しい薬理学的 介入の発展をもたらすかもしれない。	
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Med Microbiol 2007; 56: 1235- 1242	TSEの病因におけるspiroplasmaの役割について調べた。 Spiroplasma mirumをシカに頭蓋内接種したところ、1.5- 5.5ヶ月後にTSEの臨床症状を発現し、用量依存的に海綿 状脳症を呈した。反芻動物への頭蓋内接種後のTSE感染 脳から鶏卵胚培養でspiroplasmaが分離された。これらの spiroplasmaをヒツジとヤギに頭蓋内接種したところ自然 発生TSEに酷似の海綿状脳症が誘発されることが確認さ れた。	
101	2008/04/24	80101	サノフィ・ア ベンティス	エノキサパリンナトリウム	ヘパリンベン ジルエステ ル	ブタ腸粘膜	米国、カナ ダ、フラン ス、ドイツ、 ベルギー、 オランダ及 びオースト リア	有効成分	無	無	無				

102	2008/04/24	80102	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	ブラスミン	ウシ血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
103	2008/04/24	80103	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
104	2008/04/24	80104	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え細胞	ペビーハムスターの腎臓	数十年前に樹立したマスターセルバンクに使用した細胞株のため原産国不明	製造工程	無	無	無			
105	2008/04/24	80105	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	抗モンテプラーゼモノクローナル抗体	マウス腹水	日本	製造工程	無	無	無			
106	2008/04/24	80106	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、ニカラグア、エルサルバドル、パナマ又はウルグアイ(MCBに一部米国産を含む)	製造工程	無	無	無			
107	2008/04/24	80107	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	抗不純蛋白質抗体	ウサギ血清	日本	製造工程	無	無	無			

108	2008/04/24	80108	CSLベージング		ヒトアルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	添加物	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	定期的に輸血を受けるサラセミア患者で、Torque Teno virus (TTV)の有無を調べたところ、2-20歳の患者の約10%(118名中12名)がTTV陰性であった。フェリチン、ASTおよびALT値はTTV陽性群より陰性群の方が低かった。TTV-HCV共感染群ではフェリチンおよびALT値がTTV単独感染群より高かった。輸血による高頻度かつ継続的なTTV感染はサラセミア患者における肝機能障害と関連することが示唆された。
												ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	Simian Foamy Virus (SFV)感染した男性7名を長期間追跡調査した。男性は非ヒト霊長類と接触する職業であった。男性の全ての末梢血単核球(PBMC)からプロウイルスDNAが検出され、口腔や尿生殖検体から検出されることもあった。長期間(中央値20年)の性的曝露にかかわらず妻たちは陰性であった。特異的な臨床症状は報告されなかった。限定的な追跡調査であるためSFV関連疾患やヒト-ヒト感染を特定できなかった。
												ウエストナイルウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	中央ヨーロッパにおけるウエストナイルウイルス(WNV)の潜在的脅威を調べた。ドイツ人供血者14437名由来の検体中0.03%が抗WNV陽性であった。ドイツ人9976名由来の検体をWNV NAT法を用いてWNV-RNAの有無を調べた結果、全て陰性であった。米国由来血漿プールではWNV-RNAがしばしば検出されたが、ヨーロッパやアジア由来のプールからは検出されなかった。また、血漿製剤製造過程のウイルス不活化によりWNVに関する安全性は保証されることが明らかとなった。
109	2008/04/24	80109	CSLベージング		アプロチニン	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
110	2008/04/24	80110	CSLベージング		ウマコラーゲン	ウマアキレス腱	フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア	支持体	無	無	無			

111	2008/04/24	80111	CSLベール ング		トロンビン画 分	ウシ血液	ニュージ ー ランド	有効成分	無	無	無			
112	2008/04/24	80112	CSLベール ング		トロンボプラ スチン	ウサギ脳	ニュージ ー ランド	製造工程	無	無	無			
113	2008/04/24	80113	CSLベール ング		ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
114	2008/04/24	80114	CSLベール ング		ヒトフィブリ ノ ゲン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オースト リア	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	80108に同じ
												ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	80108に同じ
												ウエストナイル ウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	80108に同じ
115	2008/04/24	80115	CSLベール ング		アンチトロン ビンIII	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オースト リア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	80108に同じ
												ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	80108に同じ
												ウエストナイル ウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	80108に同じ

116	2008/04/24	80116	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	デング熱	Am J Trop Med Hyg 2007; 76: 1182-1188	2004年8-10月に中国 Ningbo でデング熱のアウトブレイクが起こり、報告された83例中68例が確定された。2例からデングウイルスセロタイプ-1が分離された。アウトブレイクはタイから戻った旅行者に関係しており、遺伝系統学的分析により Ningbo 分離株はタイ由来株に密接に相関していた。無症候性住民における特異的IgGの保有率が流行地域では対照地域に比べ有意に高かった。高密度のヒトスジマカの発生がウイルスの急速な拡散の原因であった。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070903.2894	2006年5月にインドネシアのスマトラ島の女性が家畜からH5N1トリインフルエンザウイルスに感染し、さらに親戚に感染させた。感染した8名の家族のうち7名がまもなく死亡した。米国防立衛生局の新たな研究により、トリインフルエンザのヒトからヒトへ伝播が初めて確定された。
												デング熱	ProMED-mail20070924.3165	タイ保健省によれば、2007年1月1日～9月8日におけるデング熱感染症例は41975例であり、うち47例が死亡した。インドネシアでは16万例を超えており、ビルマ(ミャンマー)では計11577例、カンボジアでは25000例(15才未満の小児300例が死亡)が感染した。マレーシアでは感染が50%急増し、2007年6月に56例が死亡、7月は毎週1000例以上の患者が入院した。ベトナムでは2006年より40%増加し、33000例が感染し、32例が死亡した。
												結核	Bull World Health Organ 2007; 85: 586-592	2004年10月-2005年9月にタイ結核能動的サーベイランスネットワークで収集された結核症例は5841例(164/100000)で、うち新規症例は2310例(65/100000)であった。これは2003年の受動的サーベイランスに比べ総症例数で19%、新規症例数で13%増加した。タイにおけるWHOの新しい戦略は私的施設における症例発見を増加させ、結核患者に対するHIVサービスおよび多剤耐性結核の診断を改善した。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070928.3212	N5N1トリインフルエンザウイルスは妊婦の胎盤を通過可能であり、胎児に感染することが北京大学の研究者らにより報告された。またウイルスが肺だけでなく、胃腸管、脳、肝臓および血液細胞へ拡がるとのエビデンスが示された。

																	デング熱	ProMED-mail20071008.3312	フィリピン政府は9月の第2週にデング熱症例が4000症例以上を記録したため国中にデング熱警報を出したと、2007年10月3日に保健局が発表した。2007年1月以来24689例が記録され、内283例が死亡した。
																	デング熱	ProMED-mail20071017.3396	台湾のTainan市当局は2007年10月12日にデング熱確定症例が500例を突破し、過去最悪の511例となったと報告した。市の北部および東部で家族での集団感染があったため、公衆に防御を呼びかけている。
																	マラリア	ProMED-mail20071026.3487	タイにおける約10年ぶりのマラリアの再興は公衆衛生上の大きな脅威であることが最近の調査で明らかとなった。タイ健康増進基金による最新情報によるとマラリアとコレラは南部および北東部における重大な問題になりつつある。マラリアの発生は特に最南端の国境に接する州で重大で、今年(2007年)になってから今までに3000人以上が感染した。
																	デング熱	ProMED-mail20071030.3516	ベトナム保健省は洪水多発地域で新たなデング熱アウトブレイクの危険性が高いため、州や市へデング熱防御および抑制のための厳格な手段をとるよう命令した。同国では今年(2007年)、デング熱症例が80000例近く発生しており、うち68例が死亡した。パキスタンKarachiではデング熱症例は2007年8月以降上昇し、1527例となったと地方保健局が2007年10月23日に発表した。別の地域で新たに48例が報告された。
																	結核	Curr HIV Res 2007; 5: 499-504	2000-2005年にインドNew Delhiで治療を受けたHIV垂直感染小児213名をスクリーニングし、培養で結核と確定した24名について調べた。結核と診断された年齢(中央値)は16ヶ月で、半分以上の小児が免疫不全であった。21名(87%)が肺結核で、肺以外の結核が10名(41%)で確定された。6ヶ月間の抗結核薬治療後の回復率は64%であった。3名が薬物抵抗性で、5名が死亡した。
																	日本脳炎	ProMED-mail20071201.3877	2007年11月30日インド保健省は、今年Uttar Pradeshで約500名が日本脳炎で死亡したと発表した。2007年11月23日までに、州当局は2450例の急性脳炎症候群および499例の死亡を報告した。

ID	疾病名	国名	報告年	報告者	報告日	報告種別	報告内容
	チクングニヤウイルス感染					ProMED-mail20071209.3973	米GalvestonのUniv. Texas Medical Branchの研究者らが、インド洋のLa Reunion島における原因不明の疾患の原因を発見したことを発表した。研究者らは、266000例が感染し、少なくとも260例が死亡した流行疾患は、チクングニヤウイルスの単一の突然変異によるものであり、このウイルスは、以前はウイルスを保有していることが知られていなかったAedes albopictusにより伝播されることを証明した。
	デング熱					ProMED-mail20071227.4147	インドネシアCentral Java保健サービスは、2007年1月から12月までにデング熱に住民11636名が感染し、うち217名が死亡したと発表した。2007年1-11月の同市での発生率は4.95/10000人で、2006年の3.37/10000人より高かった。
	HIV感染、C型肝炎					日本エイズ学会誌2007; 9: 541	中国では1985年HIV最初感染例報告以来、2005年末報告数は14万人に上った。感染者数は65万人と推定される。現在、34省級区域全て感染者が存在し、性的経路による新規感染者は49.8%、エイズ死亡率は63.4%である。湖北省HIV感染者報告数は約3500人、54%は血液感染による。HIVは全てB'サブタイプであった。HIV/HCV共感染率は75%で、HCVは78.6%が2a、21.4%が1bであった。
	マラリア					Clin Infect Dis 2008; 46: 165-171	マレーシア住民におけるPlasmodium knowlesiマラリアの分布を調査し、P. knowlesi疑い死亡例4例について調べた。その結果、P. knowlesiによるヒト感染はマレーシアボルネオからマレーシア半島まで広く分布することが明らかとなった。4例の死亡例からはP. knowlesi DNAだけが検出された。P. knowlesiは、より軽症の四日熱マラリアと誤診断されることが多いので注意を要する。
	チクングニヤウイルス感染					ProMED-mail20080104.0051	インドネシアBandarlampungでは2007年12月に数千人がチクングニヤに感染した。最悪感染地域のWaydadi地区では3自治会で500名近くの住民が感染した。感染は2007年11月に始まり、Bandarlampungの多くの地区に広がった。
	鳥インフルエンザ					ProMED-mail20080104.0038	2007年12月27日、WHOはパキスタンの家族におけるH5N1トリインフルエンザのヒト-ヒト感染を確定したが、感染が拡大する危険性はないと発表した。Peshawarで、感染したニワトリの処分に関わった獣医師とその兄弟3名が肺炎を発症し、処分に関わっていなかったその内の1名が2007年11月23日に死亡し、WHOによりヒト-ヒト感染と確定された。他は全員回復した。

												デング熱	ProMED-mail20080120.0255	カンボジアでは2007年にデング熱により407名が死亡し、最近10年間で最高の死者数となったと保健省は2008年1月4日に発表した。死亡例の大部分は小児であった。デング熱は同国における慢性的な問題であるが、2007年は雨季の到来が例年より早かったことも原因であるとしている。
												デング熱	ProMED-mail20080218.0662	タイでは2008年になってから今までに4名がデング熱で死亡し、累積患者数は1ヶ月で2824名となった。患者の70%は中部地方の住民である。2007年の同時期の患者数は1702名で、死亡例はない。2007年のデング熱患者数は約60000名で、死亡数は29名である。
117	2008/04/24	80117	わかもと製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	ベスト	ProMED-mail20071212.3998	中国保健省は2007年12月10日、2007年11月にGansu省が2例目のベスト症例を報告したと発表した。患者は死亡した。Gansu省では2007年9月に中国で初めてのベスト症例が報告された。
118	2008/04/24	80118	大塚製薬工場	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	健康なブタの小腸粘膜抽出物	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	Lancet 2007; 370: 935	泌尿器外科医がブタを用いて手術の練習をした後、急性肝炎を発症した。患者の血液よりHEV RNAが検出され、HEV感染と診断された。患者のHEVの遺伝子型は3cであり、ブタにしか見られない遺伝子型であった。ブタの血液から感染したものと思われる。
												E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2007; 77: 893-896	スペインの屠殺場の作業員でE型肝炎感染が確認された。同定されたHEVはジェノタイプ3、サブタイプ3fiに属していた。患者の血清から分離されたウイルスの部分的配列解析によって、ヨーロッパのヒト株およびブタ株とのヌクレオチド相同性がそれぞれ83.4%-97.3%の範囲であることが明らかとなった。これらの所見は、ブタの感染器官の取り扱いを介して職業病としてHEVに感染したことを強く示唆する。
												旋毛虫症	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 40-44	ラオス北部のUdomxay地区病院における2005年6月から2006年5月の旋毛虫疑い症例138名について調査した。その結果、結婚式または葬式に出席した人の比率が高く、生または発酵ブタ肉料理を食べていたことが明らかとなった。ELISA分析の結果、これらの症例のTrichinella陽性率は67.6%(138名中90名)であった。同地区の屠殺場のブタ肉1検体からTrichinellaが検出され、T. spiralisと同定された。

ID	発症日	品名	製造者	成分	原料	産地	有効成分	有	無	無	疾患	参考文献	概要
											E型肝炎	Gastroenterol Clin Biol 2007; 31: 1095-1097	2006年にフランスの夫婦が南フランスに旅行後に重篤な肝炎を発症し、血清中に抗HEV IgMおよびHEV RNAが検出され、E型肝炎と診断された。2人とも黄疸発症4週間前に生の乾燥ブタ肉を食べていた。この肉から検出されたHEV遺伝子は、患者血清から分離したものと高い相同性を示したことから、このブタ肉が感染源と特定された。火を通していないブタ肉の摂取がHEV感染源となる可能性が示唆された。
											神経系障害	ProMED-mail20080201.0405	2006年11月から2007年11月にMinnesotaの豚肉加工場作業員12名が炎症性神経疾患を発症し、Indianaの豚肉加工場従業員2名も同様の症状を発症した。この疾患は進行性炎症性神経障害と名づけられた。ケースコントロール試験の結果、ブタの脳を高圧空気を用いて採取する工程と発症との関連性が強く示唆された。原因として、ブタの脳組織が自己免疫性末梢ニューロパチーを引き起こしたとの仮説があるが、詳細を調査中である。
											インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870	カナダの共同農場で生活していた7ヶ月齢の乳児から、A/Canada/1158/2006と名づけられたブタインフルエンザAウイルス(H3N2)が単離された。この農場のメンバー90名のうち54名で同ウイルスに対する血清学的検査を行ったところ、54名中9名が陽性であった。また、ブタ10頭のうち1頭で血清陽性が明らかになった。ブタインフルエンザウイルス株は効率的にヒトからヒトへ伝染する形に適応または交雑することから、インフルエンザ流行への備えの一環として養豚者の定期的サーベイランスを検討すべきである。
119	2008/04/24	80119	大洋薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	Minnesota Department of Health/ News Release 2007年12月3日	ミネソタ州保健局はオースティンのブタ処理施設Quality Pork Processors社の従業員における11名の神経疾患について調査中である。最初の症例は2006年12月に発症し、その後数ヶ月間にわたり、2007年7月まで発症した。先週、更に入院中の1名を確認した。筋力の低下や感覚異常を特徴とし、炎症性神経疾患と思われる。死亡例はない。11症例はブタ頭部や臓器の処理場で働いていた。原因は特定されていない。

											神経系障害	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。	
												Medscape/Medical News 2008年1月28日	2つのブタ処理施設の従業員に神経学的症状が報告されたのを受け、米国CDCは全ての神経科医に対して、同様の症例の報告を求める緊急速報を送付した。CDCが1月17日にアメリカ神経学会に送付した速報は、2006年11月から2007年11月にMinnesotaブタ処理施設の従業員12名が炎症性神経障害を発生した件について報告している。2008年1月中旬にはIndianaのブタ処理施設で同様の症例が報告された。	
												International Herald Tribune/Americas 2008年2月1日	MinnesotaとIndianaのブタ処理施設従業員で報告された奇妙な病気は理解間近であり、CDCの調査官はこの疾病を進行性炎症性神経障害と名づけた。ミネソタ当局はQuality Pork Processors IncのAustin工場の何千人もの前従業員を調査中である。調査官は、空中に噴霧したブタの脳組織を吸い込んだことにより病気となったかを明らかにしようとしている。	
												インフルエンザ	USDA/News & Events 2007年12月19日	研究者らは、1957年のパンデミック時にヒトに感染したH2インフルエンザウイルス群に属するブタインフルエンザの新しい株H2N3を同定した。この株は分子にねじれがあり、トリインフルエンザとブタインフルエンザ遺伝子の両方から成る。この発見は、ブタがトリ・ブタ・ヒトによって運ばれるインフルエンザウイルスの“mixing vessel”としての役割を担う可能性があるとの更なる証拠を提供している。

Q	発症日	番号	製造者名	成分名	原料	国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA Published online 2007年12月18日	米国の2つの農場の発病したブタから遺伝学的に相同性であるトリ/ブタウイルスの再集合株のH2N3インフルエンザウイルスを分離・解析した。これらのウイルスは実験的に感染させたブタおよびマウスで前適合なしで発病させることができた。また、ブタおよびフェレットで感染性があり、高伝播性であった。H2N3ウイルスは哺乳類宿主への適合性を持つため、その拡大に注意すべきである。
120	2008/04/24	80120	大洋薬品工業	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	Minnesota Department of Health/ News Release 2007年12月3日	ミネソタ州保健局はオーステンのブタ処理施設Quality Pork Processors社の従業員における11名の神経疾患について調査中である。最初の症例は2006年12月に発症し、その後数ヶ月間にわたり、2007年7月まで発症した。先週、更に入院中の1名を確認した。筋力の低下や感覚異常を特徴とし、炎症性神経疾患と思われる。死亡例はない。11症例はブタ頭部や臓器の処理場で働いていた。原因は特定されていない。
											神経系障害	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。
											神経系障害	Medscape/Medical News 2008年1月28日	2つのブタ処理施設の従業員に神経学的症状が報告されたのを受け、米国CDCは全ての神経科医に対して、同様の症例の報告を求める緊急速報を送付した。CDCが1月17日にアメリカ神経学会に送付した速報は、2006年11月から2007年11月にMinnesotaブタ処理施設の従業員12名が炎症性神経障害を発症した件について報告している。2008年1月中旬にはIndianaのブタ処理施設で同様の症例が報告された。

										神経系障害	International Herald Tribune/Americas 2008年2月1日	MinnesotaとIndianaのブタ処理施設従業員で報告された奇妙な病気は理解間近であり、CDCの調査官はこの疾病を進行性炎症性神経障害と名づけた。ミネソタ当局はQuality Pork Processors IncのAustin工場の何千人もの前従業員を調査中である。調査官は、空中に噴霧したブタの脳組織を吸い込んだことにより病気となったかを明らかにしようとしている。
										神経系障害	Star Tribune 2008年3月6日	米国Nebraskaの精肉業者はMinnesotaとIndianaのブタ処理施設従業員を襲ったのと同じ神経学的症状であった。同州では初めての症例である。Nebraskaの精肉業者もブタの脳を高圧空気を用いて採取する工程のプラントで働いていたとNebraska保健局は報告した。本症例で合計14名の従業員が同疾患患者となった。
										インフルエンザ	USDA/News & Events 2007年12月19日	研究者らは、1957年のパンデミック時にヒトに感染したH2インフルエンザウイルス群に属するブタインフルエンザの新しい株H2N3を同定した。この株は分子にねじれがあり、トリインフルエンザとブタインフルエンザ遺伝子の両方から成る。この発見は、ブタがトリ・ブタ・ヒトによって運ばれるインフルエンザウイルスの“mixing vessel”としての役割を担う可能性があるとの更なる証拠を提供している。
										鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA Published online 2007年12月18日	米国の2つの農場の発病したブタから遺伝学的に相同性であるトリ/ブタウイルスの再集合株のH2N3インフルエンザウイルスを分離・解析した。これらのウイルスは実験的に感染させたブタおよびマウスで前適合なして発病させることができた。また、ブタおよびフェレットで感染性があり、高伝搬性であった。H2N3ウイルスは哺乳類宿主への適合性を持つため、その拡大に注意すべきである。

121	2008/04/24	80121	大洋薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	有	無	無	炭疽	Seachange Bulletin 2007年12月2日	New Mexico大学で研究に使用されていた実験用ウサギがどのようにして野生株の炭疽に曝露したかを疫学者と科学者のチームが調査中である。大学によると、ウサギから検出された炭疽はNew Mexicoの土壤中に自然に発生するもので、公衆衛生上の脅威ではないとのことである。検出された炭疽は動物からヒトに感染しうるため、ウサギの剖検を行った従業員2名および研究所の職員約20名に予防のため抗生物質が投与された。
												炭疽	ABQ Tribune 2007 年11月19日	炭疽陽性の実験用ウサギが飼育されていたNew Mexico大学の部屋では炭疽は検出されなかったと、州保健局は今朝、報告した。ウサギに接触した従業員2名に抗生物質が投与された。研究所の職員約20名にも予防のため投与する予定である。
												野兎病	Eurosurveillance 2007; 12(45): Article 1	スペイン北部のCastilla y Leon地方で2007年6月末に野兎病のアウトブレイクあった事が疫学的に確認された。10月22日には362症例が野兎病と確定された。患者は全員、抗生物質投与により回復した。患者のうち、23.5%がげっ歯類との接触があった事、16.6%が節足動物に刺された事、17.4%がイヌまたはネコのような動物に咬まれたこと、17.1%がザリガニを取り扱った事、4.4%が野兎と接触/皮剥ぎがあったことなどが判明した。
122	2008/04/25	80122	バイエル薬品	イットリウム(90Y)イブリツモマブ チウキセタン(遺伝子組換え)注射液調整用 インジウム(111I)イブリツモマブ チウキセタン(遺伝子組換え)注射液調整用	ウシ乳加水分解物	ウシ乳	オーストラリア又はニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochem Biophys Res Commun 2007; 364: 796-800	正常な脳ホモジネートを慢性消耗性疾患エルクの異常プリオンとともにインキュベートするin vitroアッセイを用いて、プリオンの転換について調べた。標準の条件下(pH 7.4)ではPrPCからPrPScへの転換は同種(トナカイ、ムースなど)でのみ効率的であったが、酸性条件下(pH3.5)では異種(ヒト、ウシ、ハムスターおよびマウス)においても転換が著しく促進された。基質の部分変性によって構造上の変化が起こり、遠隔種